

平成26年度

事務事業の点検及び評価報告書(案)

第1回平成26年度事務事業点検評価外部評価委員会資料

平成27年7月30日(木) 10:00~16:00 庁舎3階委員会室

【評価内容】評価：事業数：()=平成25年度評価事業数：前年比増減

S	=	2事業	(2)	0
A	=	26事業	(29)	▲3
B	=	44事業	(51)	▲7
C	=	3事業	(3)	0
D	=	2事業	(0)	2
合計	=	77事業	(85)	▲8

※平成26年度においては、類似事業項目は、まとめて作成を行ったため、事業項目数は減少しております。

平成27年9月 恩納村教育委員会

1 はじめに

教育委員会は毎年、その権限に属する事務の執行及び管理状況についての点検、評価を行い、その結果を報告書として作成し、議会に提出するとともに、公表することになっております。

(地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)：平成27年4月1日改正)

そのため、恩納村教育委員会では、効果的かつ効率的な教育行政の推進に資するとともに、村民への説明責任を果たしていくために、同法第26条の規定に基づき、教育委員会の事務の点検及び評価を行い、その評価に際しては、教育に関する学識経験者で構成される外部評価委員会を設置しその知見の活用を図りました。

この報告書は、毎年作成し公表しておりますが、教育委員会としましては、報告書の内容充実に努め、村民にわかりやすい報告書にするために、必要な検討を加えていくことにしています。

また、点検評価の実施を通じて、教育施策の効果的な検証と改善を図りながら、事務事業の点検及び評価に関する結果を報告書としてまとめ、議会に提出した後、村民に公表するとともに、翌年度の施策、事業の改善に役立てるものとし、本村教育行政の着実な推進につなげていきたいと考えております。

(参考)

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」抜粋 平成27年4月1日改正

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。（平成20年4月1日施行）

2 教育委員会の活動状況について

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、首長から独立した行政委員会として各都道府県、市町村に設置されています。委員は5名で組織され、その合議の下に、学校その他教育機関の設置及びその管理や廃止に関することや教育財産の管理、学校の教育課程、学習指導、生徒指導等に関することなど教育行政の執行管理を行っております。教育委員会の代表者であり教育委員会議の主宰者である教育委員長は委員の互選により選出されます。また、教育公務員であり教育委員会事務執行責任者である教育長は教育委員の中から任命されます。教育委員長と教育長は兼任することはできないこととなっております。

通常の業務については、委員の中から選任された教育長を通して、業務の執行管理を行いますが、教育行政の基本的な方針や委員会規則や規程の制定、学校や教育機関の設置や廃止、教育機関の職員の任免、事務事業の評価などは教育長に委任することはできず、委員会自らが執行管理をすることになっております。

(1) 教育委員の任命状況

教育委員は、地方公共団体の長の被選挙権を有する者の中から、村長が議会の同意を得て選任し、その任期は4年となっております。平成26年度は、大城委員が委員長に選任され、外間委員長が委員長職務代理者に選任され、平成27年2月23日付で外間委員の辞職が同意されたため、平成26年10月1日付で就任した喜久山花菜子委員が、同日付で委員長職務代理者へ就任されました。

平成26年度の教育委員は次のとおりです。

役職	氏名	任期	教育委員としての経歴		備考
			当初就任	勤続年数	
委員長	大城肇	平成25年8月1日～平成29年7月31日	平成13年	2期5年	委員長(平成26年4月21日付)
委員	喜久山花菜子	平成26年10月1日～平成30年9月30日	平成26年	1期1年	委員長職務代理者(平成27年2月23日付)
委員	島袋正重	平成25年5月1日～平成29年4月30日	平成13年	4期13年	
委員	外間毅	平成25年3月18日～平成27年2月23日	平成25年	1期1年	辞職(平成27年2月23日付)
教育長	石川哲夫	平成25年4月1日～平成29年3月31日	平成21年	2期6年	

(2) 教育委員会の会議

教育委員会は、恩納村教育委員会会議規則に基づいて毎月21日を定例教育委員会の開催日として会議を開催するほか、緊急を有する事案が出た場合は適宜臨時会を開催し、必要事項を審議し決定しています。また、各種の主催事業や村の各種行事、各種の研修会などにも積極的に参加しています。

平成26年度の教育委員会の会議の開催状況は次のとおりです。

会議の名称	日時	場所	出席委員	案件等
4月定例会	4月21日(月) 10:00	3階委員会室	4人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第1号 「教科書採択の改善に向けた意向調査」の回答について 4. 議案第2号 恩納村小学校社会科副読本の編集委員会設置要綱の制定について 5. 議案第3号 恩納村幼児教育振興委員会設置要綱に基づく委員の委嘱について 6. 議案第4号 恩納村学校評議員の委嘱について 7. 議案第5号 平成26年度恩納村立各学校における学校薬剤師の追加委嘱について 8. 議案第6号 恩納村博物館運営協議会委員の委嘱について 9. 議案第7号 教育委員長職務代理者の選任について 10. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・名桜大学と恩納村教育委員会との連携に関する協定書の一部を変更する協定書について ・沖縄県教育庁学力向上推進室関連事業について ・平成26年度恩納村教育委員会学校計画訪問の実施について ・平成26年度恩納村学力向上推進要項(案)について ・生徒指導について

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
5月臨時会	5月1日(木) 10:00	3階委員会室	4人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 議案第8号 教科書採択地区変更に関する要請書の送付について 2. 議案第9号 全国学力学習状況調査の学校別公表のあり方について 3. その他の協議事項
5月定例会	5月21日(水) 10:00	3階委員会室	4人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要及び前々回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第10号 指定研究推進事業実施要綱の一部改正について 4. 議案第11号 恩納村立幼稚園保育料不能欠損処理取扱要綱の制定について 5. 議案第12号 恩納村教育委員会指定校の変更承認基準の改定について 6. 議案第13号 恩納村幼児教育振興委員会設置要綱に基づく委員の委嘱について 7. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査の結果について ・村内各学校での研究指定について
6月定例会	6月20日(金) 10:00	3階委員会室	4人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第14号 恩納村立学校給食センター運営委員会委員の委嘱について 4. 議案第15号 教育委員長の選任について 5. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食センターの監査報告等の進捗について ・中学校統合の事務作業の進捗状況について 6. 追加議案第16号 教育委員会職務代理者の選任について
7月臨時会	7月7日(月) 10:00	3階委員会室	4人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 議案第17号 平成26年度恩納村教育委員会事務事業の点検及び評価報告書について 2. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度地域懇談会教育委員会割り当てについて ・校長教頭研修会について
7月定例会	7月18日(金) 10:00	3階委員会室	4人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告について 3. 議案第18号 恩納村社会科副読本編集委員会設置要綱に基づく編集委員の委嘱について 4. 議案第19号 恩納村教育委員会事務事業点検評価外部評価委員会の委員の委嘱について

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
				5. 議案第 20 号 教科用図書採択地区変更に伴う平成 27 年度に中学校で使用する教科書について 6. 議案第 21 号 教科用図書採択地区変更に伴う平成 27 年度に小学校で使用する教科書について 7. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 恩納村立小中学校管理者研修会について ・ 特別授業研修会について ・ 学校給食センター事業について ・ 台風 8 号被害状況報告について ・ うるま市赤道での傷害・ひったくり事件について
8 月臨時会	8 月 14 日(木) 14:00	3 階委員会室	4 人	1. 議案第 22 号 平成 26 年度公立学校管理職の途中人事異動内示(案)の承認について 2. その他の協議事項
8 月定例会	8 月 21 日(木) 10:20	3 階委員会室	4 人	1. 前回及び前々回会議概要の承認について 2. 教育長の業務報告 3. 議案第 23 号 恩納村いじめ防止基本方針の議会提出について 4. 議案第 24 号 恩納村文化情報センター設置及び管理に関する条例(案)の提出について 5. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 秋田県講師招聘の日程確認について ・ 平成 25 年度事務事業点検評価に関する外部評価委員会の進捗について ・ ベネッセ個人情報流出問題について ・ ミャンマー交流の報告について
9 月定例会	9 月 22 日(月) 10:00	3 階委員会室	4 人	1. 前回及び前々回会議概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 議案第 25 号 恩納村心身障害児適正就学指導委員会委員の委嘱について 4. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 村内小中学校運動会出席割り当てについて ・ 特別授業研修会の実施報告について ・ 私立幼稚園就園奨励費補助金の陳情書について

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
10月定例会	10月21日(火) 10:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 議案第26号 恩納村給食センター運営委員会規程の一部を改正する規程について 4. 議案第27号 恩納村立学校給食センター運営要綱の一部を改正する要綱について 5. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・私立幼稚園連合会からの陳情について
11月定例会	11月21日(金) 10:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 議案第28号 恩納村教育委員会区域外就学認可基準の制定について 4. 議案第29号 恩納村学校支援地域本部運営委員会委員の委嘱について 5. 議案第30号 教育行政に関し、相談に関する事務を行う職員の指定について 6. 議案第31号 平成26年度恩納村一般会計補正予算(第5号)に対する意見を村長に申し出るにつき議決を求めることについて 7. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども子育て支援新制度について ・中学校統合事務の進捗について ・村内の不登校児童生徒について
12月定例会	12月22日(月) 10:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議の概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度恩納村議会一般質問について ・村内小中学校における生徒指導関係について ・パナソニック公開研究発表会について
1月定例会	1月21日(水) 10:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 議案第32号 恩納村博物館設置条例の一部を改正する条例について 4. 議案第33号 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について 5. 議案第34号 恩納村博物館管理運営規則の一部を改正する規則について 6. 議案第35号 恩納村博物館非常勤館長の設置に関する規則の一部を改正する規則について 7. 議案第36号 恩納村教育の日表彰者の承認について

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
				8. 議案第37号 恩納村社会科副読本編集委員会設置要綱に基づく編集委員の委嘱について 9. その他協議事項 ・今後の日程について ・村内小中学校の状況について
2月定例会	2月23日(月) 13:00	3階委員会室	4人	1. 前回概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 議案第38号 平成27年度公立学校管理職の定期人事異動内示(案)の承認について 4. 議案第39号 恩納村文化情報センターの設置及び管理に関する条例施行規則の制定について 5. 議案第40号 恩納村文化情報センター運営協議会委員の委嘱について 6. 議案第41号 恩納村教育委員会委員の辞職の同意について 7. 議案第42号 恩納村教育委員会委員長職務代理者の選任について 8. その他協議事項 ・今後の日程について ・生徒指導について ・学校統合の意見書について
3月臨時会	3月2日(月) 10:00	3階委員会室	4人	1. 議案第43号 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備等に関する条例の一部改正、制定及び廃止について 2. 議案第44号 恩納村立幼稚園保育料徴収条例の一部を改正する条例について 3. 議案第45号 恩納村学校給食費徴収条例の制定について 4. 議案第46号 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について 5. 議案第47号 恩納村教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について 6. 議案第48号 恩納村教育委員会の事務委任規則の一部を改正する規則について 7. 議案第49号 恩納村事務局職員の職の設置規則の一部を改正する規則について 8. 議案第50号 恩納村学校給食費徴収条例施行規則の制定について 9. 議案第51号 恩納村立幼稚園預かり保育実施要領の一部を改正する要綱について 10. 議案第52号 恩納村特別支援教育支援員配置要項の一部を改正する要項について 11. 議案第53号 恩納村立学校における学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について 12. 議案第54号 恩納村博物館非常勤館長の任命について 13. 議案第55号 平成26年度教育の日被表彰者の追加承認について

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
				14. 議案第56号 平成27年度恩納村一般会計予算(案)を村長に申し出ることについて 15. 議案第57号 平成27年度公立学校教諭等の定期人事異動内示の承認について 16. 議案第58号 平成27年度教育委員会職員に係る人事異動内示(案)の承認について 17. 議案第59号 平成27年度恩納村立幼稚園教諭の定期人事異動内示(案)の承認について 18. その他の協議事項 ・中学校統合事務の進捗状況について
3月定例会	3月25日(水) 10:00	3階委員会室	4人	1. 前回会議概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 議案第60号 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係規則等の整理等に関する規則等を定めることについて 4. 議案第61号 教育長の職務に専念する義務の特例に関する規則 5. 議案第62号 教育長の営利企業等の従事制限に関する規則の制定について 6. 議案第63号 恩納村学校給食費徴収条例施行規則の制定について 7. 議案第64号 社会教育委員の委嘱について 8. 議案第65号 恩納村社会教育指導員の委嘱について 9. 議案第66号 恩納村心の教室相談員の委嘱について 10. 議案第67号 恩納村教育相談員の委嘱について 11. 議案第68号 恩納村スポーツ推進委員の委嘱について 12. 議案第69号 恩納村要保護・準用保護児童生徒めがね購入費援助事業実施要綱の一部を改正する要綱について 13. 議案第70号 恩納村特別支援教育就学奨励費給付要綱の一部を改正する要綱について 14. 議案第71号 恩納村立幼稚園保育料徴収条例施行規則の全部を改正する規則について その他の協議事項 ・今後の日程について ・幼稚園保育料について

なお、教育委員会で審議された案件(議案)を、分類すると次のようになります。(議事概要の承認、業務報告等定型的なものは除く。)

条例関係	規則・規定・要綱等	人事・選任・委嘱関係	その他(予算等)	合計
7件	24件	29件	11件	71件

(3) 主催行事や学校行事への参加状況

教育委員会には教育委員会の行事や学校の行事など多種多様な行事があります。教育委員は、本村の教育行政の最高意思決定機関として、それらの行事に参加し、状況把握に努め、その結果を教育行政に反映させています。

平成26年度における主催行事や学校行事等各種行事への教育委員の参加状況は、次のとおりです。

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
平成26年4月1日	役場1・2階会議室・1階会議室	平成26年度村職員辞令交付式	大城委員(告辞)・石川教育長
4月2日	総合保健福祉センター	平成26年度教職員辞令交付式	全委員
4月7日	恩納小中学校体育館(中学校)	中学校入学式	大城委員(告辞)、石川教育長
4月8日	安富祖小中学校体育館 喜瀬武原小中学校体育館 恩納小中学校体育館(小学校) 仲泊小中学校体育館 山田小中学校体育館	小中学校入学式(恩納校：小学校のみ)	島袋委員(告辞) 石川教育長(告辞) 大城委員(告辞) 外間委員長(告辞) 学校教育課長(告辞)
4月9日	安富祖幼稚園 喜瀬武原幼稚園 恩納幼稚園 仲泊幼稚園 山田幼稚園	入園式	外間委員長(告辞) 大城委員(告辞) 学校教育課長(告辞) 島袋委員(告辞) 石川教育長(告辞)
5月15日～16日	金武町中央公民館	沖縄県教育委員会委員連合会研修会及び総会	全委員
5月16日	役場前	恩納村青少年街頭補導出発式	全委員
5月17日	赤間陸上競技場	三町村小学生陸上競技大会	全委員
5月19日	役場2階会議室	村学力向上推進委員会総会	全委員
5月26日	安富祖幼小中学校	学校計画訪問	全委員
5月27日	赤間陸上競技場	赤間総合運動公園落成式典	全委員
5月29日	喜瀬武原幼小中学校	学校計画訪問	全委員
5月30日	恩納幼小中学校	学校計画訪問	全委員
〃	沖縄市	中頭地区教育委員会総会	外間委員長
6月2日～6日	あいさつ運動	村内各校区	全委員
6月10日	仲泊幼小中学校	学校計画訪問	全委員

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
6月11日	山田幼小中学校	学校計画訪問	全委員
6月25日	コミュニティーセンター	村慰霊祭	大城委員長
7月3日	仲泊幼小中学校	地域教育懇談会	大城委員長
7月4日	喜瀬武原幼小中学校	地域教育懇談会	外間委員
7月7日	恩納幼小中学校	教科書調査官研究授業	全委員
7月18日	ムーンビーチ	石狩市交流懇談	全委員
7月19日～20日	コミュニティーセンター大ホール	うんなまつり	大城委員長
7月23日	真栄田公民館	地域教育懇談会	大城委員長
〃	山田公民館	地域教育懇談会	石川教育長
〃	瀬良垣公民館	地域教育懇談会	島袋委員
7月24日	谷茶公民館	地域教育懇談会	外間委員
〃	宇加地公民館	地域教育懇談会	大城委員長
〃	塩屋公民館	地域教育懇談会	石川教育長
〃	太田公民館	地域教育懇談会	島袋委員
7月25日	安富祖公民館	地域教育懇談会	外間委員
〃	南恩納公民館	地域教育懇談会	石川教育長
〃	恩納公民館	地域教育懇談会	島袋委員
〃	役場2階会議室	校務研修会	大城委員長
7月28日	名嘉真公民館	地域教育懇談会	石川教育長
7月29日	ゆうなホール	村少年の主張・意見発表大会	外間委員
8月15日	ムーンビーチ	恩納村教職員友の会交流会	全委員
9月2日	秀月	特別授業研究会講師懇談会	全委員
9月14日	赤間陸上競技場	村立中学校陸上競技大会	大城委員長
9月19日	ゆうなホール	英語ストーリースピーチコンテスト	全委員
10月1日	役場2階会議室	教育委員辞令交付式	喜久山委員
10月3日	那覇市(パレットくもじ)	県教育委員研修会	全委員
10月7日	役場2階会議室	未来塾開校式	全委員
10月5日	安富祖幼小中学校 恩納幼小中学校 仲泊幼小中学校	運動会	喜久山委員 島袋委員 大城委員長

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
10月5日	山田幼小中学校	運動会	石川教育長
10月17日	沖縄市	中頭地区教育委員会連合会理事会	大城委員長
〃	山田幼小中学校	童話・お話大会	島袋委員
〃	安富祖幼小中学校	童話・お話大会	喜久山委員
10月26日	喜瀬武原幼小中学校	運動会	外間委員
11月10日	村文化情報センター	視察見学	全委員
11月26日	村文化情報センター	村文化情報センター完成式典	全委員
12月5日	山田幼小中学校	公開授業研究報告会	全委員
12月17日	安富祖幼小中学校	教科指定研究実践報告会	全委員
12月21日	ふれあい体験センター	村産業まつり	全委員
平成27年1月4日	コミュニティーセンター	成人式	全委員
1月6日～13日	あいさつ運動	村内各校区	全委員
1月25日	安富祖小中学校 喜瀬武原小中学校(小中) 恩納小中学校 仲泊小中学校 山田小中学校	学習発表会	喜久山委員 外間委員 島袋委員 大城委員長 石川教育長
2月1日	ゆうなホール	村学力向上実践報告会「学びをたしかめつなぐ集い」	全委員
2月6日	沖縄市中央公民館	中頭地区市町村教育委員会講演会	全委員
2月10日	県庁	市町村教育委員会教育委員・教育長研修会	全委員
2月13日	沖縄市教育委員会	中頭地区教育委員会理事会	大城委員長
2月14日	北谷町二ライセンター	中頭地区学力向上実践推進大会	全委員
3月5日	役場2階会議室	未来塾閉校式	全委員
3月13日	安富祖小中学校体育館 恩納小中学校体育館 仲泊小中学校体育館 山田小中学校体育館	中学校卒業式(喜瀬武原中学校除く)	喜久山委員(告辞) 島袋委員(告辞) 大城委員長(告辞) 石川教育長(告辞)
3月15日	喜瀬武原小中学校	小中学校卒業式	石川教育長(告辞)
3月19日	安富祖幼稚園 喜瀬武原幼稚園	修了式	大城委員長(告辞) 主任指導主事(告辞)

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
3月19日	仲泊幼稚園 山田幼稚園	修了式	指導主事(告辞) 島袋委員(告辞)
3月20日	恩納幼稚園	修了式	喜久山委員(告辞)
3月23日	安富祖小中学校体育館 恩納小中学校体育館 仲泊小中学校体育館 山田小学校体育館	小学校卒業式	石川教育長(告辞) 学校教育課長(告辞) 島袋委員(告辞) 大城委員長(告辞)
3月31日	役場2階会議室	役場退職者辞令交付式	大城委員長

(4) 研修会や懇談会

教育行政の推進には教育委員の資質向上は必要不可欠です。そのため、各種の研修会に積極的に参加し、他市町村の状況を把握すると共に教育委員としての知識の向上に努めています。また、地域の声を村教育行政に反映させるため、村内の各団体との意見交換会や懇談会を開催しています。

平成26年度の研修会や懇談会等への出席状況は、次のとおりです。

日 時	場 所	研修会等の名称	備 考
5月15日～16日	金武町中央公民館	沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会及び研修会	全委員
5月30日	沖縄市	平成26年度中頭地区市町村教育委員会連合会研修会	外間委員長
7月3日	仲泊幼小中学校	地域教育懇談会	大城委員長
7月4日	喜瀬武原幼小中学校	地域教育懇談会	外間委員
7月23日	真栄田公民館	地域教育懇談会	外間委員
〃	瀬良垣公民館	地域教育懇談会	島袋委員
〃	山田公民館	地域教育懇談会	石川教育長
7月24日	谷茶公民館	地域教育懇談会	外間委員
〃	宇加地公民館	地域教育懇談会	大城委員長
〃	塩屋公民館	地域教育懇談会	石川教育長
〃	太田公民館	地域教育懇談会	島袋委員
7月25日	安富祖公民館	地域教育懇談会	外間委員
〃	南恩納公民館	地域教育懇談会	石川教育長
〃	恩納公民館	地域教育懇談会	島袋委員
7月28日	名嘉真公民館	地域教育懇談会	石川教育長
10月3日	那覇市「パレットくもじ」	沖縄県市町村教育委員連合会研修会	全委員
2月6日	沖縄市中央公民館	平成26年度中頭地区市町村教育委員会連合会講演会	全委員

3 事務の点検評価について

平成 26 年度の事務の点検及び評価の項目は、前年に引き続き、効果的かつ効率的な事業の実施を行うため、前年度の課題克服に向けた取り組みとその結果を明確にし、その結果を踏まえて、事業効果を判断し、継続すべきか、規模拡大又は規模縮小、または廃止まで踏み込んで評価を行いました。

事業評価シートの項目は、前年と同じ「事業項目」、「実施目標」、「前年度の課題」、「課題克服に向けた取り組み」、「事業の成果」、「今後の課題」、「評価」、「総合判断」の 8 項目とし、事業項目の分類数を検討し、最小限の事業項目数に改めて事業評価シートを作成しております。

総合判断では、事業の成果と費用対効果を勘案し、

- ① 現状の内容で継続
- ② 事業規模を拡大又は縮小して継続
- ③ 事業の廃止

の 3 項目で判断しました。

事務事業の点検・評価は、前年度に実施した事業について、すでに現年度の事業が進んでいる時点で行われることから、課題に対する取り組みは既に評価の時点で事業が終了していた場合など当該年度では取り組めないこともあり、実質的な課題解決に対する取り組みは 1 年遅れになることがあります。この事業点検評価を翌年度の施策、事業の改善に役立てるものとし、

評価の方法については、次のとおり 5 段階で評価しました。

- S：目標以上に事業効果をあげることができた。
- A：目標が達成できた。
- B：目標が概ね達成できた。
- C：目標が一部しか達成できなかった。
- D：目標が達成できなかった。

以上によって評価された平成 26 年度の結果は次のとおりです。

事務事業評価シート

(1) 学校教育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取り組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
教育委員会研修事業(吉山)(石川)	各種の研修会に積極的に参加し、教育委員各自の教育に関する見識を高める。	沖縄県、中頭地区等主催の研修会への出席は、積極的に行っているが、村単独での研修会等の計画を充実させ、実施する必要がある	教育委員会事務局と連携を図り、日程調整を早い段階から進めた。	県・中頭市町村教育委員会連合会の研修会への参加、教育講演会、学校訪問、地域懇談会等への参加、統合中学校建設候補地の視察、文化情報センターを視察することにより教育に関する見識を深めることができた。	教育委員の資質の向上及び情報の共有を図るため、村単独の研修会や勉強会の計画を充実させ、実施する必要がある	B	① 現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
教職員友の会補助事業(宜志富)	教員志望者に対し、教員採用試験に関する講義や演習を実施し、受験に関する講話を行う。	参加人数が少なく、費用対効果の面からも課題がある。	村内放送による開催呼びかけを辞め、村内学校と個人に向けて参加者を募った。	一次試験合格後の二次対策に力を注ぎ、個別に対策をした。4回の学習会に3名が参加した。小学校2名合格。	ほとんどの受験者が個人で学習塾等に通っている現状があり、参加者の増加は見込めない状況にある。	C	③事業の廃止
学校評議員設置事業(宜志富・吉山)	地域の住民の意見を学校経営に取り入れ、地域に開かれた学校づくりを推進するため、各学校に5名以内の学校評議員を配置する。	学校評議員を効果的に活用するためマネジメントサイクルの確立に努める。	各学校とも学校経営全般について情報を提供し、学校課題についての共通理解を図った。	学校評議員との意見交換で、学校経営の現状を説明し、課題について共有し、改善に努めた。	学校の課題について、委員会による集約を行い、改善点について指導助言を行う。	B	①現状の内容で継続
校長会・教頭会(宜志富・當銘)	教育関連法規の改定や教育委員会による事業説明、質疑・応答を通して共通理解を図り、学校経営に資する。現場の課題についての情報交換を行い、課題を明確にし、教育行政に反映させる。	沖縄県教育委員会校務改善委員会の提案による教育課程における学校行事等の精選が課題となっている。	校長会・教頭会を通して、校務改善について意見交換を行う。	校長会及び教頭会での意見交換を通して、校務改善及び精選が概ね図られた。	学校行事の成果や諸課題について、管理者の意見や情報交換を更に深め改善を図る。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
教育相談事業 (石川)	配慮を要する幼児児童生徒とその保護者の相談に応じ、必要な助言をする。	心の教室相談員やSSW、村相談員の役割等、教育相談体制をどのように位置づけるか。 SSW(スクールソーシャルワーカー) ・児童生徒の話に耳を傾け、一緒に活動し、親と子又は学校との間に立って、気持ちの代弁、調整及び仲介等を行い、子どもを個人として尊重し、サポートを行っています。	恩納村いじめ防止基本方針を策定し、教育相談員を恩納村いじめ防止等対策委員会(附属機関設置)への構成員として位置づけられ不登校の児童生徒やいじめ問題等への課題への取組みを行った。	不登校の児童生徒への教育相談室での対応を行い、受験対策等を行った。 SSW・SCとの連携を図り、各学校での課題等の把握・対応を行い、適切な指導等へ結びつけた。	恩納村いじめ防止基本方針に沿って外部(児童生徒・保護者等)からの連絡体制や関係機関へのアプローチ及び環境の整備を整える。 相談電話の新設及び不在時(土日祝祭日等)の転送ダイヤルの相談環境の整備等(いじめ、自殺等)	B	①現状の内容で継続
教育委員会学校計画訪問(宜志富)	村の教育施策との整合性及び校務全般の管理・運営状況を確認し、学校経営に資する。	週案の作成及び活用に必要な課題があり、学校長及び教育委員会からの指導助言を行い改善を図る。	学校説明会における意見交換や全体会での指導助言を行った。特に服務規律、安全指導等の週案への朱書きについては全体会で強調して話した。	学校教育目標具現化のための進捗状況の掌握が出来た。各校の説明が丁寧であった。服務に関する諸帳簿の整理について改善が見られた。	管理運営に関してはほぼ改善が図られた。今後は教育施策の充実を図る。	B	①現状の内容で継続
中学生リーダー研修(當銘)	生徒会に係る課題等を協議することにより生徒会活動の活性化と企画力、発表力、表現力、協調性を育成する。	研修会での議論の結果を各学校でどのように実践していくか。	第3回リーダー研修会にて、各学校での取り組みの発表、また課題解決について討議を行い解決策を練り上げる事で、実践への足がかりとする。	各校ともにしっかりと発表できたと同時に学校のリーダーとしての意識を高めることができた。また、自校の課題への解決策を明確にすることで実践する学校が見られた。	次年度は生徒会リーダー研修会から議会答弁「子ども議会への取り組み」へ変更するため、充実した子ども議会の開催に向けた準備計画が必要である。	B	③事業の廃止

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
奨学資金貸与事業 (喜久山)	経済的な理由により、学資の援助を必要とする者に対して学資の一部を貸与し有用な人材を養成する。	経済的理由による進学断念の状況が生じないように申込者全員へ貸与ができるよう対応していくことと長期未納者への状況に応じた対応を講じていきたい。	貸与については、申込者全員に貸与ができた。収納事務については、本人への催告書で、連帯保証人への請求をする旨伝えたところ、長期収納がなかった者が納付するようになった。	奨学金申込者全員に対し貸与を行うことができた。(県内19名・県外11名) 貸与額は10,320千円で徴収額は13,108千円、寄付金420千円で収入合計は、13,528千円となり3,208千円の収入増となりました。	経済的理由による進学の断念が生じないように申込者全員へ貸与できるように対応していくことと併せて申込時の提出書類の簡素化を検討していきたい。 長期間未納者に対しては状況に応じた納付方法を促していきたい。	A	①現状の内容で継続
職場体験学習事業 (當銘)	村内5校の中学2年生を対象に正しい職業観・勤労観を身につけさせることをねらいとする。	受け入れ人数の限定により、希望事業所と派遣事業所が異なり、意欲が減退する生徒への配慮を行うことや担当教諭の主体性を持たせる。	過去に受け入れてくれたほとんどの事業所に今年度の受入の可否について通知を行った。	多くの事業所から「受入可能」の回答があり、合計141名の受入ができる状態になった。 (生徒総数102名)	一部の生徒ではあるが、全く希望外の事業所に決まった生徒、また快く受入の回答をしたのに希望する生徒がいない事業所などが多々あり、事業所の受入と生徒の希望調査の方法や手順に改善が必要である。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
幼稚園教諭研修会 (宜志富)	村内5幼稚園教諭の資質の向上を図る。幼稚園運営に関する意見交換を行い、改善に関する方策を策定する。	新規採用者・10年経験者に対する研修会の実施と園経営に対する支援をする。 園運営に関する研修会を実施する。	新規採用者・10年経験者に対する研修会を実施する。	幼稚園教諭が各種研修会へ積極的に参加した。	幼稚園教諭を対象とした村主催の研修会を実施する。	B	①現状の内容で継続
幼稚園管理備品・保育振興備品整備事業(喜久山)	幼稚園教育に関する備品及び保育環境の充実を図る。	各幼稚園の遊具が経年劣化による修繕が頻繁なため補助事業等を活用した遊具整備を進める	補助事業を活用した遊具整備の計画がたてられた。	各幼稚園で必要な備品整備を行なったことにより保育環境の充実が図られた。	各幼稚園のスペースを考慮し最適な遊具の種類を選択する。	A	①現状の内容で継続
幼稚園教育の推進 (宜志富)	幼稚園の自然環境・人的環境を生かした特色ある保育活動を実施する。	幼児教育振興会議における新たな振興策の提案が必要である。	年間計画に沿った幼児期養育振興会議の開催。	幼児教育振興プログラムの検証と新幼児教育振興計画が策定され、今後の指針ができた。	幼児教育振興計画に沿った事業の展開。	B	①事業を拡大して継続
教育振興備品整備事業(喜久山)	学校の要望に基づく教材備品を拡充することにより、効果的な学習が行えるようにする。	平成26年度においては恩納校・安富祖のICT整備を行うと共にICT機器の活用についての教師の研修等を行いたい。	恩納校、安富祖校とICT教育機器及びデジタル教材の整備が完了した。	ICT(情報通信技術)教育 電子黒板、タブレット型端末等を用いた教育(デジタル教材等を使用)によりわかりやすい授業が可能となった。	ICT教育機器が整備されていない仲泊校において一括交付金を活用したICT教育機器の整備を図る。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
就学支援事業 (松崎)	一定の条件を満たした家庭の児童生徒に対し、学資を援助して経済的に恵まれない児童生徒の教育を支援する。	村ホームページ等への掲載や、引き続き、SSW・学校事務職員と連携し、経済的支援を進めていきたい。	村ホームページ等への掲載を検討していたが、年度末に全児童生徒へ文書を配布しているため、周知されていると思われる。SSW・学校事務職員と連携し、経済的支援が必要な家庭には支援することが出来た。	前年度より年度途中の申請が可能になったことで、急激な家庭環境の変化により、経済的援助が必要な家庭の児童生徒への支援を行うことが出来た。	提出書類の簡素化を検討したい。配布文章の明瞭化。引き続きSSW・学校事務職員と連携し、経済的支援を進めていきたい。	B	①現状の内容で継続
心の教室相談員配置事業 (宜志富)	児童生徒のストレスや悩みを和らげ、健全な学校生活を営むことができる学校環境を整備する。	いじめ防止条例等における心の教室相談員の対応について検討する。	心の教室相談員研修会で情報交換を行うと同時に未然防止や児童生徒からの情報の取捨選択や教諭や管理者とのほう・れん・そう体制について確認した。	課題のある子供だけでなく悩みやいらいらしている子供の話し相手となり、心のとげ抜きをすると同時に未然防止という点で効果は大きいと思われる。	学校間格差があり、心の教室相談員活用への工夫が必要である。	B	①現状の内容で継続
教育の情報化コーディネーター (喜久山)	恩納村立幼稚園・小中学校における学校ICT環境整備に対する提案とその効果的な活用、情報化による授業改善や児童生徒への直接指導、テレビ電話システムを活用、リスクマネジメント、情報機器を活用した情報公開・広報等について専門的知見から教育の情報化を推進するために派遣する。	全ての学校へ最新のICT機器の導入を図り、児童生徒の学力の向上を図る。 教育の情報化コーディネーターによるテレビ会議システムに対する児童生徒の評価をどのようにするか	恩納校、安富祖校へ新規のICT教育機器整備を行う際、最適な機器の選択を行い、費用面でも効率的に整備できた。 石狩市紅南小学校と山田小学校でテレビ電話を活用した交流を行った。	ICT教育器の有効活用により、よりわかりやすい授業が行われ、学力の向上が図られた。 各学校における情報教育機器のトラブルや新規導入に対し、専門的知見を生かして対応した。	仲泊校のICT教育機器整備に向けた機器の選択。 整備された機器の活用方法を含めた児童生徒、先生に対する教育の情報化推進のための指導及び協力体制構築。 また、テレビ電話を活用した交流を推進していく。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
学習支援員配置事業(宜志富・喜久山)	学校教育の課題である児童生徒の学力向上に資するため、各学校へ学習支援員を配置し、算数・数学を中心としたきめ細かな指導を実施する。	マネジメントサイクルに基づく、支援員の有効活用が課題である。	学習支援員研修会やスキルアップ研修会の機会を捉えて意見交換する。	学習支援員の配置により、村内の児童の学力が少しずつ向上している。	学習支援員の継続的配置と新規雇用者に対するスキルアップ研修の開催。	B	①現状の内容で継続
特別支援員配置事業(宜志富・喜久山)	障がいのある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援する。	毎年特別支援員配置についての要望が多くなっている。59名	特別支援員の配置については、他市町村の配置状況や活用方法を参考に配置する。	支援を要する児童生徒に十分対応できる配置と対応ができた。	配慮を要する児童生徒の増加に伴う支援員の拡充。	B	②事業を拡大して継続
英語指導助手派遣事業（ALT）(宜志富・喜久山)	ネイティブを配置することにより、児童生徒の外国語「英語」力の向上を図る。	小学校におけるネイティブをどのように有効活用するかが課題である。	小学校外国語指導や放課後英語教室での講師として活用する。	恩納・仲泊・山田校に於いて、放課後英語教室の講師として活用された。	安富祖小・喜瀬武原小でのネイティブの活用を図る。	B	②事業規模を拡大して継続
対外競技派遣事業(喜久山)	児童生徒の文化的、体育的活動「部活動」の振興を図る。	今後も継続して各部活動の充実を図るため県外等派遣に関する費用の確保に努める。	各学校での部活動が充実し、県内外での大会への派遣費用等の予算確保に努めた。	バドミントン、空手、ものづくり教育フェア等県内外への派遣に対し、旅費等を補助することで経済的な負担を軽減すると共に、県外等で競技することにより選手としての視野を広げた。	今後も継続して各部活動の充実を図るため県外等派遣に関する費用の確保に努める。	S	①現状の内容で継続
中学校部活動支援事業(喜久山)	中学校の文化的、体育的活動「部活動」の振興を図る。	各学校部活動の更なる発展を推進するため継続的な部活動予算を確保する。	文化的・体育的活動の充実を図るため部活動消耗品等の部活動予算の確保に努めた。	各学校への部活動予算の配分を行い、部活動消耗品等の充実が図られた。	各学校の部活動が支障なく活動できるよう消耗品等の予算確保に努める。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
知能検査 標準学力検査事業 (當銘)	児童生徒の学力の定着状況を把握し、指導法の工夫改善に役立てる。	各種学力調査との関連から標準学力調査の学年及び回数改善を行うこと。	知能検査及び進路適性検査(コンパス：中2)を実施する。たま、標準学力検査活用説明会を行い、活用の充実につなげる。	知能検査における中学校の生徒理解が進んだ。特に特別支援等の境界線の児童について把握と生徒理解につながった。 標準学力検査についても活用の幅が広がった。	学力面だけでなく情緒面においても生徒の実態をより正確に把握する為、さらなる調査が必要である。(ハイパーQUテスト等)	B	② 事業規模の拡大
指定研究事業 (宜志富)	特色ある学校づくり及び学力の向上を目指し、教科・領域指定及び皆泳指定研究をする。	皆泳指定研究の講師の確保が課題である。 安富祖校・仲泊校指定研究の推進。	早い段階で皆泳指定研究の講師を確保する。 指定研究事業に対し、研究内容を掌握し、支援に当たる。	皆泳指定研究では、6学年で8割以上が25m以上泳げるようになった。 安富祖校のUD・総合学習及び仲泊校の人材活用研究成果報告会が開かれ、他校へ良い影響を与えた。	教科領域指定研究校として新たに指定される恩納校の研究内容に対する支援。	B	① 現状の内容で継続
小中学校施設整備事業 (大城)	適切な学校の施設整備を行なうことによるよりよい教育環境の確保	プールの老朽化による事業採択の検討。	公立学校施設整備事業長期計画を作成した。	公立学校施設整備事業長期計画ヒヤリングにおいて、県と事業計画の調整を行った。	プール改築予定年度において実施できるように関係機関及び関係課との調整を図る。	B	① 現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
学校施設維持管理事業(大城)	適切な学校の施設及び設備の維持管理を行なうことによるよりよい教育環境の確保	施設の老朽化が進んでいるので、施設修繕を検討する。	緊急性及び優先順位を考慮して事業を実施した。	喜瀬武原校プール濾過装置の修繕及び安富祖校冷却塔等の修繕等を実施した。	施設の老朽化が一部進んでおり、中学校統合を考慮して施設修繕等を実施しながら、施設の長寿命化を図る。	B	①現状の内容で継続
恩納村立中学校適正規模推進事業(恩納村教育振興審議会答申)(石川)	少子高齢化に伴い、幼小中学校の児童生徒の減少化は進み、殆どの中学校で学年1学級又は複式学級となっており、今後もこの傾向は続くことが予測され幼小中学校の適正規模推進計画を策定し、中学校統合に向けた事務事業を実施する。	候補地の現地踏査を行い、3箇所程度に候補地を絞り込みコンサルタント業者へ費用等の調査を委託する。	コンサルタント業者へ統合中学校建設候補地選定調査を委託し、報告書の作成を実施する。	コンサルタント業者へ統合中学校建設候補地選定調査を委託し、与条件の整理、建設候補地の比較検討、維持管理費の概算、通学手法の検討等の調査を行い、建設候補地の最終選定まで業務が進められた。 調査報告書の完了は、繰越となり、平成27年度完了予定となった。	統合中学校建設候補地選定調査報告書の完了後、候補地選定委員会での統合中学校建設候補地選定調査報告書の最終確認及び教育委員会への提言を行い、平成27年9月以降に各校区ごとの説明会を実施する。	B	①現状の内容で継続

(2) 社会教育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
青少年団体等活動助成事業 (4団体) (紀彦)	青少年を対象としたボランティア活動やスポーツ活動を行っている団体に対して助成を行い、その活動を支援し健全な青少年の育成を図る。	各種ボランティア団体等へ事業の周知を継続して行い、活用について啓発する。	子ども会及び読み聞かせボランティア団体、少年スポーツ団体への周知を行った。	読み聞かせボランティア団体への助成が出来た ・読み聞かせボランティア 3団体 ・放課後子どもクラブ 1団体	引き続き各種団体への周知を行う。	A	①現状の内容で継続
国際交流派遣事業(紀彦)	創造性、積極性、国際性に富み、グローバルな視点で物事を考察できる人材の育成を目指す。 (アメリカホームステイ：中高校生対象：5名、但し、応募が少ない場合には大学生の応募も対象可) (アジア圏内[台湾]交流事業：総勢15名①村立小中学校児童生徒10名②引率者5名)	「アメリカホームステイプログラム」については、実施要綱の見直しを行い、事業周知の拡充を図る。 また、被派遣者の事後調査を実施し、結果を集約する。 アジア圏内交流事業については、次年度の事業実施に向けて、実施要綱等の整備、予算の確保等を図る。	アメリカホームステイについては、応募開始1ヶ月前より村広報誌等を活用し募集案内を実施し、より意欲のある者を派遣するため応募基準や審査方法改善を行った。また、事後調査を実施するため、調査対象者の把握を行った。 アジア圏内交流事業については、事業実施に向けて実施要項の整備、予算確保のために対米請求権を活用することにより、村負担軽減に努めた。 また、派遣に向けて事前研修会、事後研修会、各小中学校での発表会、学推実践発表大会での報告を行った。	アメリカホームステイについては、広報誌等の活用、募集案内の時期を早め、対象者に対し周知を図ったことから前年度応募者7名に対し、応募者が9名と若干であるが増加した。 被派遣者実績 高校生：2名 中学生：3名 また、これまでの派遣履歴を確認することで事後調査の対象者を把握することができた。 アジア圏内交流事業については、事前研修会を実施することで、派遣先での授業体験、文化交流事業を円滑に行うことが出来た。	両事業については、広報誌、教育委員会関係行事予定表等を活用し募集案内の周知を図る。 アジア圏内交流事業については、派遣先での授業体験、文化交流等のタイムスケジュールが過密だった為、児童生徒の負担（体力的に）が大きかった。負担軽減にむけてスケジュールの再検討が必要である。 また、アメリカンホームステイ事後報告会の開催も検討していく。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
自然生活体験学習「サバイバル・キャンプ」事業(紀彦)	無人島キャンプを行い、自然に親しみ、仲間と協力することで協調性を育み、健康で思いやりのある心の育成を図る。	<p>今後は、野外炊飯活動時に火熾し器を活用し、より目的に沿った活動に変更していく必要がある。</p> <p>また、サバイバル・キャンプが勤労体験学習（田植え、稲刈り）との連携事業であることの周知を図る必要がある。</p>	<p>村子連の理事会を活用して、サバイバルキャンプで活用する「米」が勤労体験学習をとおして田植え、収穫(稲刈り)していることで、食育も兼ねていることから、重要な連携事業であることの説明の機会を設けた。</p>	<p>連携事業説明の機会を設けることで、各子ども会に対し重要性の理解を再認識してもらうことが出来た。</p> <p>その上で、田植え、稲刈り、両方参加した児童がサバイバルキャンプに参加することで、食育にもつなげることが出来た。</p> <p>6年生：35名 ジュニアリーダー：18名</p>	<p>今後も参加する児童生徒や各字子ども会へ連携事業の重要性の説明を継続し、意識改善を図る。</p> <p>また、昨年度の課題にあげた「火熾し器」の活用が出来なかったことから、子ども会ジュニアリーダー兼主事でも活用できるように、事前購入する必要がある。</p>	A	①現状の内容で継続
成人式事業(紀彦)	新成人の新たな門出を激励すると共に、社会を構成する成人としての自覚と責任を認識し、住みよい村づくりへの意識の向上を図る。	<p>今後も実行委員会を立ち上げ、式典・祝賀会の内容について検討を継続する必要がある。</p> <p>また、徐々に実行委員会主体による事業企画・運営の認知度が上向いている傾向にある。引き続き周知を図る必要がある。</p>	<p>実行委員会募集を、村広報誌・公民館などへ早めに周知し、青年団協議会を仲介役として募集を行った。</p> <p>また、祝賀会内容について該当者と一般参観者、来賓の方々が一緒に参加できる内容を実行委員会で検討し、実施した。</p>	<p>前年度実行委員や村青協を通して募集を行うことができた。祝賀会では、該当者・一般参観者、来賓の方々が交流することができた。</p> <p>成人式祝賀会実行委員：10名(各校区より2名) 新成人該当者：107名 成人式参加者：87名</p>	<p>祝賀会については、実行委員会にて企画・実施ができるようになってきたが、該当者の問題行動や出席に相応しくない服装等での参加が目立つ。該当者の意識改善を図るため、各校区の該当者代表、各字青年会代表を交えた、意見交換会等の機会を設ける必要がある。</p>	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
社会教育教室 (うんな大学) (全5回) (紀彦)	<p>本村の教育資源・人材を最大限に活用して学習することで、村民の生涯学習意欲の向上やボランティア活動への参画意識向上の機会とする。</p> <p>また、本講座での学習成果を学校地域支援事業へ繋げ、本村における教育資源の素晴らしさの再発見とボランティア活動における人材育成を図ることを目的とする。</p>	<p>今後は、広報誌や村ホームページへの掲載等で事業周知の拡充を図る必要がある。教室内容、開催時間等の村民ニーズの把握が必要である。</p> <p>また、学校支援ボランティア事業と関連のある事業として実施する必要がある。</p>	<p>今年度は、学校にてボランティアをしている方を中心に、県が推進している「家なれー運動」のプログラムを活用して実施した。</p>	<p>○家庭教育(家庭でできていること、できていないこと)がいかに関重要であるかということ学ぶ機会となった。</p> <p>○各地域でボランティア活動を行っている方々に周知をおこなったが、参加につなげることができなかった。</p> <p>参加者 8名</p>	<p>○今後も講座内容や開催日時、受講対象者の検討を行い、事業の周知徹底を図り、受講者の増加につとめる。</p> <p>○女性教室で好評であった「初心者の英会話教室」を女性以外も対象に加え、開設に向けて取り組む。</p>	C	①現状の内容で継続
いきいき女性教室 (全8回) (紀彦)	<p>学習機会を通して資質や技術の向上を図り、女性の地域づくりへの参加を推進する。</p> <p>併せて、受講を機に地域でのサークル活動に繋げ、生涯学習啓発の場とする。</p>	<p>受講者が僅かではあるが増加している。更に受講者の増加を目指し、今後も女性層(婦人会等)へニーズ把握に務める必要がある。</p>	<p>女性層(婦人会等)より要望が多かった、初心者の英会話教室(OIST職員を活用)を中心に実施した。</p>	<p>特に英会話教室では、OIST職員を活用することで、生きた英語に触れながら学習することができ、今後の学習意欲の向上につなげる機会となった。</p> <p>初心者でも自宅できるヨガ教室(1回):受講者 16名</p> <p>日常英会話教室「初心者編」(4回):受講者 10名</p> <p>「糸紡ぎ・箱織り」(3回):受講者 19名</p>	<p>今後も継続してニーズの把握、受講者の増加、女性層の学習意欲の向上に努める。</p>	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
人材育成研修 (全1回) (紀彦)	組織づくり支援・地域交流活性化支援・リーダー人材育成支援・就業意識向上支援 ※前年度実施したリーダー育成講座と青年講座を統合	青年層のニーズを把握する必要がある。今後も村青年団協議会と協力し、ニーズの把握や講座の周知を図る。	各字青年会代表者、成人式実行委員会に対し、他市町村での事例を勉強する機会として、講師と日程調整に取り組んだ。	今年度は、成人式について考える機会として研修を企画したが、開催側と講師との調整が合わず、開催することができなかった。	○次年度においても、引き続き成人式を考える機会として研修を実施する。 ○今後は、青年層だけに偏らず、子ども会や婦人会、青少年の健全育成に携わる団体も対象に加え、実施に向けて取り組む必要がある。	D	①現状の内容で継続
楽しく子育て教室 (全5回) (紀彦)	今後も、開設場所を支援センターに限定することなく、村内社会教育施設を活用する。 また、マイクロバスを活用し、村内保育所に通所している園児との交流にも繋げる。	会場を支援センターに限定したため、施設利用者以外の受講が少なかったもので、それ以外の会場設定が必要である。 また、内容が体験教室に偏っているので、家庭教育の基本である生活習慣の改善につながる教室開設の検討が必要。 屋外でのびのびと身体を動かせるような教室の検討も必要である。	教室開設場所を分散化することで、村広域からの受講希望者の増加に取り組み、教室内容によっては、村マイクロバスを活用し、受講者の負担軽減に取り組んだ。 (リズム遊び、折り紙教室)	教室開設場所を分散化、村マイクロバスを活用することで、受講希望者の負担軽減につながった。 リズム遊び：38名 乳幼児の緊急時対処法：18名 センター利用者と保育所の交流「折り紙」：41名 クリスマスキャンドルを作ろう：22名 親子料理教室：26名	今後も、開設場所、送迎等を継続して検討する。 また、社会教育講座で実施した「家なれー運動」のプログラム活用、生活リズムに関する教室の開催、福祉健康課とのタイアップ事業として、乳幼児検診時のベビーマッサージ講座の実施を検討する。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	今後の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
ボランティア養成講座 (全5回) (紀彦)	ボランティア活動で地域に寄与している方々を対象に活動に必要な資質の向上を図ると共に相互の交流を図る機会とする。	読み聞かせボランティア活動については、各校とも活発になってきており、村全体の「読み聞かせサークルボーノ」も立ち上がったことから、読み聞かせに関する講座としては平成26年度を最終年度とし、今後は、学校支援ボランティア事業のボランティア養成に繋がる補助的事業として講座を実施する。	今年度は、読み聞かせスキルアップ講座として集大成の講座として「文化情報センター」開館セレモニーでのアトラクション発表、オープンウィークでの発表に向けた練習を兼ねて講座を実施した。	読み聞かせスキルアップ講座を継続実施したことで、読み聞かせ団体の更なる資質の向上、学校において朗読劇の披露等につながり、学校支援・ボランティア活動の活性化につながった。 また、サークル団体の定着にもつながった。	読み聞かせスキルアップ講座については、サークル団体のスキルアップが図られた。 次年度は、学校・家庭・地域支援ボランティア事業等のボランティア養成に繋がる補助的事業を検討する。	A	①現状の内容で継続 (養成が必要なボランティアへ対象変更)
公民館講座 (6講座開設) (紀彦)	村民に対して学習機会を提供するとともに指導者の養成を図る。	これまでの講座開設の周知により、婦人を母体とした団体のみならず、それ以外からの申請も増加傾向にある。 趣味の延長上の講座が多いため、公民館を活用して地域見聞、見つめ直しのような講座等開設への助言が必要である。	講座開設申請者が婦人を母体とした団体に偏らないよう、各団体や各区長へ周知依頼をした。 公民館講座での成果を発表する機会を提供した。 また、同内容を継続して開催しているグループについては、サークル化への助言をした。	講座を開設したグループ間の活動や交流の支援に繋がった。 なお、南恩納については「地域再発見」をテーマに講座が開設され、地域の素晴らしさを再認識する機会につながった。 宇加地については、地域に自生している植物の効能の素晴らしさについて、講座が開設され、公民館を中心に定期的に集まって、	今後も公民館を中心としたコミュニティ形成支援、地域のよりどころとしての公民館活用の増加につながるよう、各種団体や各区長へ講座の開設周知を継続して行う必要がある。 活動実績の資料を活用した広報活	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
				<p>勉強会をしているようです。</p> <p>また、両講座はこれまでにない講座であったので、生涯学習等成果発表会で発表の機会を持つことができた。</p> <p>恩納(ローフト) : 11名 〃 (ホースチュア・ウォーキング) : 17名 南恩納(地域再発見) : 11名 宇加地(クラフトバック) : 10名 名富着(バランスホール・エクササイズ) : 10名 仲泊(三線・着付け) : 16名 真栄田(大人の折り紙教室、生活アロマ) : 11名</p>	<p>動による周知を図る。</p> <p>また、各種公民館講座の周知方法を検討し、より多くの村民への参加呼びかけを行う。</p>		
青少年劇場小公演事業(紀彦)	優れた芸術を直に鑑賞し、感動と歓びを与えることを目的とする。県文化財課からの受託事業。	<ul style="list-style-type: none"> ・当事業を継続するため、学校及び県文化財課との連携を密に取り組む。 ・アンケートを実施し、事業についての感想を収集したい。 	事業実施のため県文化財課並びに学校との調整を行った。	県文化財課からの事業実施希望を受け、学校への調整を図ったが、開催時期の調整ができず、実施希望を提出できなかった。	県文化財課からの周知以前に学校への調整を行い、事業の周知を徹底するよう努める。	D	①現状の内容で継続(調整事務を充実させる。)

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
人材育成激励金 支給事業(大)	教育、芸術、文化スポーツの分野において優秀な成績を収めた個人に対し、激励金を支給することにより、人材育成と教育、芸術、文化、スポーツの振興を図る。	周知活動を行うとともに、人材バンク等への登録や他事業への連携を図り、人材を活用できるようにする	○激励金受給者が学校支援ボランティアとして連携できるよう取り組んだ。	<p>スポーツ競技は 98 件の支給があった。</p> <p>○スポーツ面</p> <p>サッカー 学生：27 件、一般：7 件</p> <p>バドミントン 学生：6 件、一般：0 件</p> <p>陸上、駅伝 学生：6 件、一般：0 件</p> <p>バレー 学生：5 件、一般：0 件</p> <p>ラグビー 学生：6 件、一般：0 件</p> <p>サッカー 学生：1 件、一般：0 件</p> <p>野球 学生：0 件、一般：17 件</p> <p>空手 学生：13 件、一般：1 件</p> <p>○文化面</p> <p>吹奏楽(リコーダー) 学生：1 件、一般 7 件</p> <p>美術 学生：1 件、一般 0 件</p> <p>○受給者が学校支援ボランティアとして連携することができた。</p>	周知活動の継続、また必要に応じて他事業との連携を図る。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
各種団体への活動支援	社会教育分野で活動する各種団体に対し補助金を交付し、その活動を支援することにより社会教育活動の振興を図る。	各種団体の年間活動を把握し、適正な補助金の交付を図る。	各種団体の総会や事業へ参加し、年間の事業活動の把握に努めた。	<p>青少年の健全育成をはじめ、村内で活動する団体へ補助金を交付すること、並びに団体の主催する事業に参加・協力することにより事業活動を把握し、支援することができた。</p> <p>○青少年健全育成協議会 3,284,000 円</p> <p>○子ども会育成連絡協議会 1,910,000 円</p> <p>○P T A 連合会 1,585,000 円</p> <p>○婦人会 1,045,000 円</p> <p>○青年団協議会 443,000 円</p> <p>○文化協会 1,894,000 円</p>	各種団体の事業活動の把握に努めるとともに、連携し社会教育活動の推進体制の構築を図る。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
文化情報センター準備室業務 (親泊)(呉屋)	文化情報センターの設置に向け、必要な事務を行うと共に、住民に対し、図書貸出サービスの提供に取り組み、読書活動を推進する。	文化情報センターの設置に向け、円滑な事務を図ると共に開館にむけて各種サービス内容を定める。 条例の設置、IC タグの導入、運営協議会の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・金武町、読谷村広域貸出サービスや準備室において貸出サービスに取り組んだ。 ・文化情報センターへの資料移管のため準備室においての貸出サービスを9月までとした。 ・条例、規則の設置に取り組んだ。 ・運営協議会の設置に取り組んだ。 ・文化情報センターへの図書管理システムの導入に取り組んだ。 ・開館に向け備品等の整備に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・金武町並びに読谷村の公立図書館における広域貸出サービス ・読谷村 利用者数 221名 利用冊数 1,313冊 ・金武町 利用者数 271名 利用冊数 1,186冊 ・文化情報センター準備室(4月～9月) 利用者数 1,301名 貸出冊数 4,967冊 蔵書冊数 16,063冊 ・恩納村文化情報センター設置及び管理に関する条例及び条例施行規則を制定した。 ・恩納村文化尾情報センター運営協議会を設置し、会議を1回実施した。 ・図書管理システムを導入し、図書資料の移管を実施した。 ・書棚等備品を購入し、整備を実施した 	<ul style="list-style-type: none"> ・27年度に文化情報センターが開館するので、それに伴い貸出サービスを完了する。 条例、施行規則に基づく業務の執行に取り組む。 運営会議を定期的に行い、文化情報センターの効果的な運営に努める。 ・システムを活用し、適切な資料の運用に取り組む。 ・備品の適切な管理に努める 	A	③ 事業の完了

(3) 社会体育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
各種社会体育事業の充実 (体力テスト) (大)	村民に対し、スポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	体力テスト以外にもスポーツ推進事業を実施できるよう連携して展開していく。	福祉健康課等と連携し、体力テスト以外の事業も実施できないか調整を行った。	場所等の都合により実施出来なかったが、体力テストを実施し、健康増進の意識高揚につながった。 参加者：18名	他機関と連携しながら、スポーツ推進事業を実施できるよう連携して展開していく。	B	①現状の内容で継続
各種社会体育事業の充実 (スポーツ教室) (大)	村民に対し、スポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	スポーツ推進委員と連携し、参加しやすい教室展開を継続する。また、アンケート等による要望等の調査実施が必要である。	夜間に教室を開催し、「ヨガ&ピラティス教室」を南部地区、北部地区で各5回開催した。また、参加者からの要望や教室の実施方法等のアンケートを行った。	多くの村民の参加があり、健康増進への意識高揚につながった。 北部地区：73名(59) 南部地区：75名(68)	アンケート結果を教室実施に反映させ、村民の参加しやすい教室を実施する。	A	①現状の内容で継続
各種社会体育事業の充実 (壮年バレーボール) (大)	村民に対し、スポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	スポーツ推進委員と協力しながら大会運営、周知活動していきたい	スポーツ推進委員定例会での大会調整、スポーツ推進委員からの周知活動を行った。	9チームの参加があった。また参加チームに大会運営協力(審判員)をしてもらい、スムーズな大会運営ができた。 申込チーム：9チーム(0)	事業継続し、スポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
各種社会体育事業の充実 (壮年ソフトボール) (大)	村民に対し、スポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	今後も参加者・スポーツ推進委員と調整し、スムーズな大会運営を目指す。	監督会議で大会運営に協力してもらうように調整した	参加チームに大会運営協力をしてもらい、スムーズな大会運営ができた。 参加チーム：18チーム (18)	事業継続し、スポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	A	①現状の内容で継続
各種社会体育事業の充実 女性スポーツ大会 (ソフトバレー) (大)	村民に対し、スポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	スポーツ推進委員と協力しスムーズな大会運営、積極的な周知活動を行う。	字への通知だけではなく、スポーツ推進委員と協力し、スポーツ推進委員自ら周知活動を行った。	参加チームはあまり変わらなかったが、スポーツ推進委員が主体となって大会運営ができた。 参加チーム チャレンジクラス：3チーム(5) チャンピオンクラス：6チーム(3)	ミニバレー大会と類似する部分があるので、事業精査する必要がある。	B	①現状の内容で継続(ミニバレー大会との統合を検討。)
各種社会体育事業の充実 (ミニバレー) (大)	ミニバレーを通してスポーツ技術の向上を図り、健康増進の意識高揚、村民の親睦を深める。	参加チームを増やすために、継続して周知活動に力を入れていきたい。	字への通知だけではなく、スポーツ推進委員と協力し、スポーツ推進委員自ら周知活動を行った。	他事業と重なり、参加チームが少なかった。 参加チーム 3 (18) チャレンジクラス A 3(2) チャレンジクラス B 0(8) チャンピオンクラス 0(8)	ソフトバレー大会と類似する部分があるので、事業精査する必要がある。	C	①事業の見直しを行う。

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
スポーツ推進委員の資質向上 (大)	各種スポーツの振興と普及活動を支援し、スポーツ推進委員個々の資質の向上を促す。	県、中頭地区の研修への積極的参加、 また、自ら研修を企画し、スポーツ推進委員全員の資質向上を図る。	県や中頭地区での研修へ積極的に参加した。 また、村で行われる大会やイベント等に繋がる研修を自ら企画し実施するなかで、個々のスポーツ推進委員の資質向上につながった。	様々な事業でスポーツ推進委員が中心になって大会運営ができていたが、委嘱年数の若い委員の活動が少ない。 スポーツ委員研修等参加延べ人数 H25：319人 H26：298人	委嘱年数の若い委員へ呼びかけ、またスポーツ推進委員がいない字は協力して適任の人材を探し、定員が満たすようにする。	B	①現状の内容で継続
恩納村体育協会、国頭郡体育協会の活動支援 (大)	恩納村及び国頭郡の体育協会に補助金を交付し、その活動を支援することによりスポーツの振興を図る。	今後もスポーツ振興、競技力向上のために、事業展開や施設の有効活用等の指導・助言を行っていく。	スポーツ振興、競技力向上に繋がるような事業展開の提案など、指導助言を行った。	今回は新たな事業展開はなかったが、駅伝、バドミントン、卓球、ソフトボールなどで優秀な成績を収めた。また、社会体育施設の年間を通しての活用が見られた。	体協主催の事業展開、体育施設の利用等の指導・助言を行う。	B	①現状の内容で継続
村立小中学校体育施設（プール）の一般開放事業 (大)	夏休み期間中、学校施設を有効活用し、村民の泳力及び体力の向上を図る。	開放期間中の水泳教室は今後も継続していきたい。 土日開放については、土日の利用が少ないので今後は平日開放を継続する。	今回は平日のみのプール開放を行った。また恩納校で開放期間中の水泳教室を実施した。	教室実施数及び参加者 恩納校 3回（37名） プール利用延べ人数 1052（1268） 安富祖：150（175） 喜瀬武原：181（110） 恩納：283（267） 仲泊：287（410） 山田；151（306）	開放期間中の水泳教室は今後も継続していきたい。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
各種団体等県外派遣補助事業(大)	村民のスポーツや文化活動に対する意欲を向上させ、各種スポーツ及び文化的活動の振興を図る。	事業を継続し、該当する団体・個人等の情報収集、広報誌等の活用、周知に努める。	派遣事業に該当する団体の情報収集、広報誌等の活用、周知徹底に努める。	○小学生 喜瀬武原クラブ ○一般 該当なし	事業を継続し、該当する団体、個人等の情報収集、広報誌の活用、周知徹底に努める。	B	①現状の内容で継続
村体育施設維持管理事業(大)	村内の体育施設の維持管理に指定管理者制度を導入し、その運営を行わせることにより、管理費用の軽減及び利活用の増進を目指す。	施設の維持管理徹底に努めていくとともに、活用しやすい施設運営、周知活動を行っていきけるよう指定管理側と連携する。	施設利用率向上に向けての施設維持管理徹底の指導を行った。 また、定期的に調整会議を行い、問題点解決に向けた取組、村の要望等を伝え、指定管理側との意思疎通を図った。	施設維持管理については、利用者からも好評である。 H25 利用者 65152 利用回数 (682) H26 利用者 92158 利用回数 (1788) ○自主事業 ・三星ライオンズ 野球教室 ・サッカー教室 (通年)	施設の維持管理徹底に努めていくとともに、活用しやすい施設運営、周知活動を行っていきけるよう指定管理側と連携する。	A	①現状の内容で継続

(4) 学力向上推進委員会事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
地域学習塾支援事業(宜志富・吉山)	学力向上推進委員会の組織を強化し、学校、地域、家庭が連携してそれぞれの役割を分担しながら心・知・体の三拍子揃った子どもの育成を図る。	一部支部で、地域塾開設書類の提出がなかったので、今後は、支援員活用のための計画書の提出を求める。	地域塾開始事前における説明会を実施し周知を図った。	13の地区において、計画・実施された。 延べ2,149人が参加 各自治会とも工夫した取り組みが見られた。	各支部とも工夫した取り組みが見られるが、情報の共有が充分ではないため、横の連携を図る。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
石狩市中学生交流事業(金城・比嘉)	地理・歴史・文化の異なる北海道との交流体験を実施することで、沖縄の文化との違いについて学ぶとともに、人間性豊かな人材の育成を図る。 ※隔年ごとに派遣、受入れで実施する。	新年度開始と同時に募集を行い、募集定員 20 名の確保に努める。	受入れ民泊家庭との早期連携と新規内容を追加した。	平成 26 年度は 20 名の募集があった。事業内容については、現地でしか出来ない社会体験ができた。	石狩市と早く連絡を取り合い、より良い交流事業を展開出来るよう調整する。	B	①現状の内容で継続
講演会事業(宜志富)	教職員や保護者の資質の向上に資することを目的として著名人を招き、講演会を開催する。	教職員の参加が多いが、保護者や地域の参加者が少ない。	学びをたしかめつなぐ集いの講師に村出身「佐渡山美智子」氏を招聘する。	講師招聘に工夫を凝らした結果、講演会への保護者や地域の参加者が増加した。	保護者や地域のニーズ調査を行い、講演会の内容を検討する。	B	①現状の内容で継続
県外先進地視察研修事業(宜志富・當銘)	学習内容の定着率の高い県外の都道府県に小中学校の教職員を派遣し、学力定着に向けた指導方法の工夫改善に資する。	派遣者個人の研修になりがちで、研修後の各学校での活用が課題となっている。	予算を各学校とも講師招聘事業に変更し、教育委員会事務局のみ実施する。	福井県へ指導主事を派遣し、村の教育施策に生かせる情報を収集できた。	秋田県やその他の県外教育機関との関係を継続する。	B	②事業規模を縮小して継続
学推実践報告会(宜志富・當銘)	恩納村学力向上推進の取り組みの成果と課題を、学校・家庭・地域の立場から検証する。	教職員の参加が多いが、保護者や地域の参加者が少ない。	広報無線を活用して地域に知らせるとともに、学校を通して保護者へ参加を促した。	学推コンクール・教育の日表彰を同時に開催したためか、例年より保護者の参加者が増えた。	公民館と連携し、各地区へ参加割当人数を設定し、地域の方々の参加増員を図る。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容		課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
諸検定料支援事業 (吉山)	全国規模で実施されている漢字検定・英語検定・数学検定等を希望する児童生徒に半額補助し、学力の意識化と定着を図る。	運営における学校教員の対応が難しい。	3大検定に絞ってチャレンジできる人数を増やす。	例年受験者が増えている。上位入賞者も増えている。 受験者数 英検：368名 漢検：651名 数検：191名 理検：15名	上位級の合格率が低いため、安易な受験にならないよう指導を促す必要がある	B	①現状の内容で継続
未来塾事業 (宜志富)	高校受験を控えた中学校3年生に対し、学習への不安・課題を解消するために実施する。	学習ボランティアに対する交通費等の要綱内容の検討。	要項の検討を行い、交通費等を支給できるようにする。	要項の改定により、学習ボランティアへ交通費を支給することができた。	学習ボランティアに対する事前研修の実施や今後の課題について検証する必要がある。	B	①現状の内容で継続
スキルアップ研修 (當銘)	各学年・教科1人体制という課題を解決するため、村内職員が協力して協議し、互いの資質・能力を高めるために行う。	スキルアップ研修会をより効果的にする為の予算の獲得。 (H25は予算ナン)	予算を計上し、教材教具の開発や講師依頼ができるようにし、研修会の充実を図るようにした。	教育センター主事を招聘した研修会の実施、また標本などの教具等を作成することができた。	授業時数に欠時数がでないスキルアップ研修会の実施について検討が必要である。	B	①現状の内容で継続
各種コンクール事業 (宜志富・當銘)	各種コンクール事業を開催することにより、児童生徒に発表の機会を与える。	コンクール優秀賞受賞作品の活用について検討が必要である。	校務改善の観点から、コンクールの応募を夏季休業前に開始し、うんなまつりで展示を行う。	多くの保護者や参加者の目にふれる事ができた。また、受賞した児童生徒の自信にもつながった。	受賞作品の表示に工夫を加えつつ、広報活動を充実させる。	B	①現状の内容で継続

(5) 博物館所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
博物館運営 (親泊)	博物館は村の自然、歴史、文化を発信する生涯学習機関としてふるさと学習の拠点となるよう、関連する資料の収集、整理、保存活用に努めると共に、展示公開、調査研究を充実させ、企画展、各種講座、芸術鑑賞の機会を通して、ふるさと学習にふさわしい施設としてその活性化を図る。	文化情報センターの開館によって、博物館を取り巻く状況も変化していくことが想定されるため、展示内容のリニューアルも視野に入れた今後の取り組みを検討する。 また、継続した入館者・施設利用者増加のための企画に取り組んでいく。	サークルの活動支援等で村民の施設利用の増加を図った。 ・小中学校の授業での利用の受け入れのほか、授業の講師、教職員の研修の受け入れなどを行った。 ・博物館運営協議会については、年1回の開催にとどまった。 ・H27年度の文化情報センターの開館に合わせ、利用者の利便性向上を図るため、博物館の入館料についてはH27年4月から無料になるよう条例・規則の改正に取り組んだ。	博物館利用人数 8,464名。(前年度 8,637名) 内訳 入館者 5,755名(前年度 6,309名) 施設利用者 2,709名(前年度 2,328名) 目標人数は10,000人。 ・学校の博物館利用は村内が6件、村外が4件あったほか、学校の授業には講師として2件参画した。	文化情報センターや関係機関と連携しながら、展示会・講座などの企画をとおした来館者・リピーターの獲得 ・サークル活動の支援などを継続し、村民の博物館利用の促進 ・授業の受け入れや出張講座等を行い学校の利用促進 以上の項目に努め、目標人数の達成に取り組む	B	①現状の内容で継続
企画展・展示会 (親泊)	博物館が所蔵する資料や文化財などの資料の活用のほか、地域と連携しながら、恩納村の情報を発信し、村の歴史や文化に対する理解を深めてもらう場とする。	継続して自然・歴史・文化などの広い分野の資料を収集し、その資料や研究成果を展示に反映させることで、展示物の充実に努めたい。 ○企画によっては展示内容、展示方法等の見直し、開催期間	①「ナビーに届け！恩納の魅力フォトコンテスト」作品展 村商工会主催の写真コンテストの応募全作品を展示し、恩納村の魅力を伝える。 ②「新収蔵品展」 H22～24年度に収集、博物館に寄贈いただいた	①「ナビーに届け！恩納の魅力フォトコンテスト」作品展 4/25～5/15に開催(17日間)。期間中の来場者357名。※目標人数350名。 ②「新収蔵品展」5/20～6/15に開催(24日間)。期間中の来場者288名。	○継続して自然・歴史・文化などの広い分野の資料を収集し、その資料や研究成果を展示に反映させることで、展示物の充実に努めるとともに、事業の見直しなどを行いながら、より魅力的な展示会	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
		<p>の延長などを行い、来館者の増加に取り組む。</p> <p>○広く村民に公開・活用できるよう、村内の他施設を利用した移動展を継続していく。</p>	<p>た資料をお披露目する展示会。</p> <p>③移動展「恩納村の海の恵み」 H25 年度に開催した企画展の展示パネルを地域の公民館で展示した。</p> <p>④「うんな工芸展 2014」 村内の陶芸、琉球ガラス工芸、漆工芸作家の作品展。作者紹介のパンフレットを作成。</p> <p>⑤県芸祭写真選抜展 県との共催事業。開催期間を昨年より延長して開催。</p> <p>⑥写真展「高江の森の小さな命」 県内の昆虫研究者である宮城秋乃氏と共同でやんばるの昆虫の写真展を開催。</p>	<p>※目標人数 400 名。</p> <p>③移動展「恩納村の海の恵み」 真栄田区公民館（8/4～8/15）、喜瀬武原区公民館（8/20～8/25）、役場ギャラリー（8/27～9/5）に開催。※期間中来場者については実数をカウントしていない。</p> <p>④「うんな工芸展 2014」 10/21～11/3 に開催（13 日間）。期間中の来場者 449 名。※目標人数 500 名。</p> <p>⑤県芸祭写真選抜展 12/13～12/23 に開催（11 日間）。期間中の来場者 344 名。※目標人数 350 名。</p> <p>⑥写真展「高江の森の小さな命」 3/5～4/12 に開催（34 日間）。3/31 までの来場者 493 名。※目標人数 400 名。</p>	<p>を開催していく。また、広く村民に公開・活用できるよう、村内の他施設を利用した移動展にも取り組んでいく。</p>		

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
博物館講座 (親泊)	博物館主催の講座を通して、村民に村の自然、歴史、文化についての理解を深める場を提供する。	今後も継続して、村に関する幅広いテーマを扱い、体験学習や巡検などを実施する。	<p>①海藻おしば作り 村の特産品である海ブドウやモズクなどの海藻を使ったおしば作り。</p> <p>②ティール作り H25 年度受講者の技術習熟を図り、竹かごの材料の採取から製作まで一貫して行った講座。一般対象。</p> <p>③写真選抜展作品講評会 県芸祭写真選抜展の作品講評会を開催。</p> <p>④「高江の小さな動物たち」 北部地域の森や動物に関心を持ってもらうことを目的とした講座。</p>	<p>①海藻おしば作り 8/17 に開催。参加者 43 名（大人 16 名、子供 27 名）※目標人数 40 名。</p> <p>②ティール作り 11/24,29,30 開催。参加者 15 名（うち、新規受講者 4 名）。※目標人数 15 名。</p> <p>③写真選抜展作品講評会 12/20 に開催。参加者 40 名※目標人数 30 名。</p> <p>④「高江の小さな動物たち」 3/7 に開催。参加者 30 名※目標人数 30 名。</p> <p>以上の成果があった。</p>	恩納村の特色を活かした講座のメニューを企画し、より多くの村民に参加してもらえるよう取り組んでいく。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
サンセットコンサート (親泊)	博物館を活用し、村民を中心に優れた芸術・音楽・芸能等を鑑賞する場を提供することで、芸能等への関心を高め、恩納村の文化振興に資することを目的とする。	アンケートでも好評を得ているので、村内出身者などの人材の発掘、幅広いジャンルでの開催を検討していきたい。	「吹奏楽の楽器」をテーマに恩納中学校吹奏楽部のほか、村外ではあるが、芸大OB、ビッグバンドに出演を依頼した。	H27年3月1日(日)に開催。来場者計200名(前年度120名)※目標人数100名。 中学生たちの日頃の成果発表にもつながり、大変好評だった。	村内の人材などを活用しながら、村民が気軽に来場できる企画を開催し、継続して文化活動の向上に貢献していく。	S	①現状の内容で継続
『恩納村博物館年報』(第9号)の刊行	博物館のこれまでの活動に関する情報をまとめることで、今後の活動や方針を決定する際の指標とすることができる。また、将来的な資料作成も兼ねる。博物館紀要と隔年にて作成している。	博物館活動、博物館の利用・活用の状況が分かる資料を活用し、博物館活動の充実に向けた資料づくりを目標とする。	展示会の様子が分かる写真や展示配置図などを積極的に掲載した。博物館の利用状況が分かる資料の掲載に努めた。	平成24・25年度の博物館活動の情報をまとめた『恩納村博物館年報』9号を刊行した。	現在は隔年の刊行であり、実施年度から刊行まで期間が開いてしまうため、刊行の時期や内容については検討したい。	A	①現状の内容で継続
歴史ロードを歩こう事業(親泊)	恩納村内に所在する国指定史跡「国頭方西海道」やその一帯に所在する恩納村の財産である文化財を見て、聞いて、触れることで文化財愛護思想の啓発を図った	参加者の安全管理に配慮するとともに案内方法の検討を実施する。	適切な安全管理を目標に声掛けや、道路付近の誘導、歩行時の呼びかけや滑りやすい箇所等に注意表示や職員を配置した。案内方法ではガイドの道の会の地元会員の方も含め案内していただいた。	5月10日に実施。参加者53名。次回も参加したいという意見が多く寄せられた。 前年度(H25)参加者：雨天のため29名(申込63名)	引き続き、参加者の安全管理に配慮するとともに案内方法の検討を実施する。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
文化財めぐり事業 (親泊)	親子で文化財めぐり をすることにより、歴 史や文化財への認識を 高め、文化財保護の啓 発を図る。	護佐丸縁の史跡や 世界遺産を巡ってお り、今後親子文化財 めぐりのルートにつ いて検討する。	今回は村内の文化財 めぐりを実施。山田、 仲泊、恩納地区の国指 定や村指定文化財など 地域の文化財めぐりを 道の会の方を講師に実 施。 ・対象を親子に限定せ ず事業を実施した。	3月29日に実施。村 内の一般を含めた22名 が参加。国指定史跡山田 城跡や仲泊遺跡、地域の 文化財について学習す る機会となった。 前年度(H25)参加者：2 2名	村内の文化財めぐ りで各集落の文化財 めぐりを計画する。	B	①現状の内容 で継続
恩納村文化財ボラ ンティアガイド養 成講座	村内の文化財の利活用 の充実を図るために恩 納村文化財ボランティア ガイド養成講座を実 施し、ガイドの増加を 図る。目標人数：10名	隔年開催のため平成 25年度は未実施。	ボランティア養成講座 を企画し、現ボランテ ィアの資質の向上と、 新たなボランティアガ イドの人材育成を図る 機会とした。	恩納村文化財ボランテ ィアガイド養成講座を 開催。ガイドの心得、恩 納村の文化財、自然、歴 史や現地講習など全7回 の講座を実施した。参加 者18名、履修者は8名。	恩納村文化財案内人 道の会より隔年で養 成講座を実施してほ しいと要望があり、 今後も隔年で実施に 取り組む。	B	①現状の内容 で継続 (隔年開催)
文化財普及事業 文化財展示会	村内の文化財の周知 と普及を図るため文化 財普及展示会を実施 し、文化財保護の啓 発を図る。 目標見学者：600名	今後も恩納村の文 化財の普及を図るた め展示会を継続して できるよう検討す る。	① 恩納村の文化財展 村内の文化財を紹介 するパネル展を開催 ② 水中文化遺産展 ミニ移動展 県立博物館移動展。県 内の水中文化遺産と恩 納村内の水中文化遺産 を紹介する展示会	① 恩納村の文化財展 11月1日～11月24日 見学者：671名 ② 水中文化遺産展 ミニ移動展 1月27日～2月22日 見学者：603名	村内の文化財普及 を図るために展示会 を継続してできるよ う検討する	A	①現状の内容 で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
恩納村文化財保護審議会(親泊)	村内に所在する文化財の保護と活用について審議会を実施し、村内の文化財保護に努める。	村内の指定文化財の増加を目指す。無形文化財の指定に向けて情報収集および検討する。	村内の指定文化財の増加を図るため、文化財保護審議会委員から意見を聴取し、指定に向けて情報収集を実施。	平成 26 年度は年 2 回の審議会を実施。 審議会では、文化財指定についての協議及び台風災害地の文化財視察、平成 26 年度事業報告及び平成 27 年度事業計画の報告等を行った。	村指定文化財の増加を図るため、具体的な審議会の実施に取り組む。	B	①現状の内容で継続
国庫補助事業 恩納村内遺跡発掘調査等(親泊)	国庫補助事業として 4 カ年事業で、村内の埋蔵文化財の分布状況の把握と開発調整に必要な確認調査の実施。	確認された文化財の周知と保護対応について検討する。	恩納通信所跡地及び恩納バイパス拡幅予定地、富着リゾート開発、名嘉真開発予定地などの大型開発予定地及び各種開発に伴う埋蔵文化財確認調査を実施。	4 月 1 日～3 月 31 日まで実施。各種大型開発予定地及び恩納通信所跡地等の試掘確認調査を実施。浜崎御嶽の祠改修に伴う保存目的の確認調査を実施。	開発予定地の文化財の保護のため事業者との調整に努める	A	①現状の内容で継続
受託事業恩納南バイパス工事に伴う緊急発掘調査	北部国道事務所より依頼があり、南恩納～谷茶区間の生産遺跡群の緊急発掘調査を実施。		恩納南バイパス予定地内の文化財保護の協議を北部国道事務所と実施し保護に努め、協議の結果、記録保存調査を実施。	10 月 1 日～3 月 31 日まで実施。近世の畑跡と猪垣など 2 遺跡の緊急発掘調査を実施し、報告書を刊行。	今後も継続して開発や工事に伴う村内の文化財保護に努める。	A	事業の完了

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
国登録有形文化財登録業務（親泊）	村内に所在する建造物を国登録有形文化財（建造物）の増加に向けて取り組む。		文化庁、県教育庁と調整及び建造物の調査を実施し、所有者を通じて登録有形文化財登録申請書を文化庁へ提出。（琉球村、旧國場家）	平成27年3月13日付け文化庁の文化財審議会より指定の答申がなされた。 告示は未定。	平成27年度に告示調整および登録有形文化財の公開及び維持管理調整を行う	A	①現状の内容で継続

（6） 学校給食センター所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
栄養教室の開催（上間）	児童生徒に食に対する正しい知識を身につけさせると共に学校給食の重要性を認識させる。	各学校で保護者も含めた食育教室を通して、更に栄養指導の充実を図る。	食に関する年間指導計画を作成し各学校への周知を図り、各学校で給食時間を利用し栄養指導を行った。	子供たちが食に対する関心を持ち、栄養に関する知識を学んだ。	年間指導計画に則り授業を行うように努める。各学校への巡回指導の充実を図る。（村内各校における授業への参画及び講話等の開催）	B	①現状の内容で継続
村産食材の積極的な活用(上間)	安全な食材の確保と村内生産者との連携による地産地消の推進	地場産物の年間を通した安定供給ができるようおんなの駅との連携を図る。「ふれあい給食」が各学校の年間行事として取り組めるよう推進する。	日頃の食材調達をおんなの駅と連絡調整を行い、年間を通して、地場産物を利用した。また「ふれあい給食」年間行事として計画した。	地場産物を学校給食を通して、子供たちに提供し、食材をつくらせている農家さんとの「ふれあい給食」を実施した。	村産食材の物資選定や安定供給ができるように農水関係者との連携を図る。 ふれあい給食については「生産者交流給食会」へ名称変更し継続する。	B	①現状の内容で継続
給食センター見学の推進(上間)	給食調理の状況を見学させ、その安全性を認識させる。	幼稚園のみでなく小中学校でもセンター見学が実施できるよう推進する。夏休みを利用した見学を検討する。	幼稚園児の調理場見学に向けた事前調整と実施。小中学校の行事調整を行った。	幼稚園児の調理場見学を実施し、給食に対する関心を高めた。	給食ができるまでの過程を理解させるため、園児児童生徒の調理場見学の実施を図る。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
給食費徴収率の向上(上間)	安全で質の高い給食の提供するため、給食費の徴収率の向上を図る。	口座振替を推奨していくことと、滞納者に対しては、児童手当の天引き制度を推奨していく。	口座振替納付を推奨するため、入園・入学オリエンテーションや村広報掲載等で周知を行った。滞納者に対し、電話督促や督促状発送を行った。	口座振替利用率が前年度 29%から 44%へ増加した。	口座振替を推奨していくことと、滞納者に対しては、児童手当の天引き制度を推奨し、期限内納付の周知を図る。	B	①現状の内容で継続

4 外部有識者の意見について

教育委員会の内部評価を終えて後、評価の客観性を確保するため、外部評価委員会に諮問して点検評価結果に関する意見を求めました。外部評価委員会の構成メンバー及び意見の内容は次のとおりです。

(1) 恩納村教育委員会の事務事業の点検評価外部評価委員会

役職	氏名	任期	備考
委員長	大城勝泰	平成26年8月1日～平成28年7月31日	元教育委員・元村議会議長(平成26年8月30日付：辞職)
副委員長	仲本政夫	平成26年8月1日～平成28年7月31日	元教育委員・元中学校教諭
委員	真栄城慶子	平成26年8月1日～平成28年7月31日	元村子供育成会会長
委員	津波古武則	平成27年7月30日～平成28年7月31日	太田区長(平成27年7月30日付：就任)

(2) 意見

当委員会は、教育長の諮問に基づき、平成27年7月30日、8月12日に委員会を開催し、諮問された各種事務事業の評価や課題把握の根拠などについて、課長及び担当者の説明を受けながら評価を行いました。また8月19日には、これまでの会議の経緯の確認と意見の集約を行い、その結果を答申いたします。

記

① 点検評価報告書について

今回の教育委員会の事務事業の点検及び評価は、事務事業評価シートにより事業目標、事業の成果、今後の課題、事務事業の評価について、事業担当者からのヒヤリングを行い事業実績や事業の成果、事業に対する自己評価等が適切であることを確認しました。また、恩納村全体の生涯教育を考え、学校教育、社会教育関係事業について、生涯教育の視点から事務事業の点検及び評価を行いました。7年目ということでこれまで、いくつかの課題も指摘されてきておりますが、点検項目並びに事業内容、取組み結果及び課題についても、わかり易く丁寧にまとめられ、担当者が熱心に取り組んだことが伺えました。

事務事業の点検及び評価は、事業の計画、実施、検討を行う職員自らが事業への意識を高め、事務事業への村民の満足度の向上や期待への適合などを視野に入れるとともに説明責任への意識を持つことが大変重要であると感じました。成果の見えにくいといわれる教育行政について、PDCAサイクルに沿って事業展開ができるよう常に点検や評価を繰り返すことが重要だということが確認できました。

この評価結果の活用につきましては、次年度以降の事業の取り組みを具体的に進めやすくするためのものであり、予算や事務改善等の施策を推進するための方向性を確認するものとして、取り入れていただきたいと思います。

② 事務事業の評価について

平成26年度は77件の事務事業の内部評価を点検しました。取り組み内容や事業成果を見る限りにおいて、全体的に評価は概ね妥当だと思います。しかし、事業目標と事業内容、事業の成果、今後の課題との間で内容が不一致なものが何件か見受けられました。また、今後の課題においては、実態と合わない内容があったため課題変更を行い、平成27年度への課題と承諾しました。事業目標と事業の成果について、国際交流等の報告会まで実施し、今後の事業内容の改善もお願いします。各事業で参加者を募集する際、対象者への事業の効果的な周知のあり方について検討し、これまで以上の事業効果が上がるよう対策を講じていただきたいと思います。

なお、外部評価をしていく中で、委員から多様な意見提言がありましたので、主なものを列記します。

学校教育関係所管事業については、「教職員友の会補助事業」で教員採用試験に向けての支援を目的として実施してきましたが、現状では民間の教員採用試験に向けて対策講習があり、参加者が少なく費用対効果が見受けられないので廃止事業とし、「教育相談事業」は、教育相談員専用の電話の設置及びいじめや自殺等の緊急を要するSOSに対応するため24時間対応のフリーダイヤルの設置を検討することを推進いたします。「中学生リーダー研修事業」については、平成27年度に「子ども議会(仮称)」を計画しているので、同事業は、「子ども議会(仮称)」に向けての研修に変更し、実施することが好ましいと考えます。「教育の情報化コーディネーター配置事業」は、各学校でのICT整備に伴い、活発に県内外及び国外の小中学校とのテレビ電話での交流等が実施されており、引き続き交流を重ねていくことを要望します。「恩納村立中学校適正規模推進事業」については、統合中学校建設候補地選定調査委託が実施されており、村民への説明責任を十分に果たせるよう検討していくことを申し添えます。「学校教育関係所管事業」は、前年度の課題等が概ね改善されており、次年度においてもより良い教育環境の整備等に尽力いただければと考えます。

社会教育関係所管事業については、「国際交流派遣事業」で実施後の報告会を開催し、次年度への事業効果や希望者の募集に繋げて行くことを提案します。また、前年度で意見のあった米国以外の国際交流の実施については、「アジア圏内交流事業」が実施され、台湾との交流が充実したと理解いたします。「成人式事業」については、例年、参加者の問題行動や出席に相応しくない服装での参加が目立つことから実行委員会と実施の方法及び内容精査を行い、本来の成人式の在り方を検討していくよう要望します。「文化情報センター準備室業務」は、恩納村文化情報センターが平成27年4月に開館され、順調に事前準備が実施されたと理解しており、後年度においても村民及び観光客等の利用を促し、村民等の同センター利用者数が増加することを確信し、その他の各教室及び事業は、概ね目標及び課題が達成されており、今後も参加者募集等の周知方法を検討し、社会教育事業に貢献していけるよう期待いたします。

社会体育関係所管事業については、「各種社会体育事業の充実(ミニバレー)」での参加者が少なく、事業の見直し又は他課との連携を密にし、充実させるよう提案します。「その他の社会体育事業の充実」は、課題克服に向けた取り組みが実施されており、今後の社会体育事業の目的に沿った事業を展開させていけるよう社会教育事業と同様に期待いたします。

学力向上推進委員会事業については、「地域学習塾支援事業」、「未来塾事業」、「諸検定料支援事業」、「県外先進地視察研修事業」での効果があり、「石狩中学生交流事業」等の事業は、課題克服に向け目的達成ができるよう事業内容の精査・周知等を検討し、事業実施できるよう提案いたします。

博物館所管事業については、「博物館講座」での「ティール作り」等の体験的講座が実施され、参加者からの好評な講座であるとともに今後も引き続き開催していただきたい。また、「サンセットコンサート」は、一般の演奏者と中学生との合同演奏があり、生徒にも大きな良い影響を与え、来場者も目標数値を大きく上回り大盛況に開催されたことに高い評価をいたしました。「その他の各事業」も概ね課題克服及び目標達成できたものの村民への周知や連絡調整等の課題が残

る事業があり、今後も課題克服に対し、鋭意努力されるよう期待します。

学校給食センター所管事業については、これまで私会計で給食費及び賄い材料費を予算管理してまいりましたが、平成26年度を最後に平成27年度より公会計（一般会計）へと移行することとなったことで、より透明性のある会計処理が行われることを期待いたします。また、「栄養教室の開催」、「村産食材の積極的活用」、「給食センター見学の推進」は、課題に向けた取り組みを図ったが、ふれあい給食の実施方法や村各種団体への給食センターの見学を推進し、学校給食衛生管理に基づく、安心安全の確保を広く村民へ周知し、工夫改善されるよう期待いたします。また、今後も連携を密にし、積極的に村産食材の活用に取り組んでいただきたいと思います。その他、個別の事業について、審査の過程で多種多様な指摘や提言がありましたがその全てを列記することは省略し、資料として会議録を添付いたしますので今後の事業展開の参考に供していただければ幸いです。

③ まとめ

この事務事業の点検評価は、前年度に実施した事業について、既に現年度の事業が進んでいる時点で行われなければならないシステムであるため、外部評価委員の意見がどの程度即効性をもって反映されているか疑問視されますが、事業終了後に行う総合評価だけではなく、事業途中で行う形成的評価を取り入れることにより、現在進行中の事業であっても途中で区切りをつけて評価し、より実効性のある点検及び評価とするためにも一度立ち止まった点検も必要ではないかと思えます。

事務事業の点検及び評価をすることにより、成果を確認するとともに、課題を見つけた場合は、次年度はその課題解決を事業目標に掲げ解決に向けて努力をしていく、この繰り返しをしていくことがマンネリ化を防ぎ、効率的な事業推進につながります。その結果が次年度以降の教育目標や事業執行、予算等に反映されるとともに、事務事業の改善等に活用されるよう職員が点検評価の趣旨を十分に理解し、高い事業目標を掲げ、常に受益者たる村民の目線で担当する事業を進めていけば、より効果的な事業展開が行われ、本村教育の更なる振興につながります。今後なお一層のご活躍をご期待申し上げ外部評価委員会の答申と致します。

④ 結びに

今回の点検評価は教育委員会にとって7回目ということで、このシステムについても各担当者に浸透し、スムーズに報告書の作成及び説明等が実施されてまいりました。今後ともなお一層村民によりわかり易い内容になるよう検討を進めながらその内容の充実に努めていきたいと考えております。

事務事業の点検及び評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育委員会が教育に関する事務事業の管理及び執行状況を点検及び評価することにより、その成果や課題を確認することで、今後の事務事業の改善に反映させるとともに、具体的、効果的な教育行政の推進を図ることを目的としています。

今回の点検評価で明らかになった課題については、次回の点検評価でその取り組みの経緯と結果がわかるよう報告していきたいと思えます。また外部評価委員会の意見を謙虚に受け止め、事務事業の改善やより効果的な事務事業の実施と内容の充実に努めてまいります。今後とも更なるご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

平成27年9月

恩納村教育委員会